

ときめき人

Tokimeki bito



長年にわたり少年の非行防止に貢献。少年補導 栄誉金章を受章

迫町・新町

永埜 正勝さん

ながの・まさかつ
1947年生まれ 血液型/O型

Profile

1998年から佐沼地区少年補導員協会会長、2013年から県少年補導員協会副会長を務める。佐沼中学校を卒業後、農業経営の傍ら農機具店に勤務。小さい頃から機械が好きで小学生の時は、農機具や車を見るとその場から動こうとしなかったほど。趣味は温泉巡りとカメラ。子どもは男2人、女1人。平成元年に永埜機工を設立し、妻と息子2人の4人で経営している。

「家庭や地域で少年の非行防止」をスローガンに、1984年から佐沼地区少年補導員として活動。長きにわたり少年の非行防止や健全育成に貢献したとして、少年補導栄誉金章を受章しました。金章は各都道府県から1人程度しか与えられない栄誉のあるもの。6月18日、東京で開かれた少年補導功労者・功労団体表彰式で金高雅仁警察庁長官から表彰状と金章が贈られました。

「佐沼地区少年補導員の皆さんや家族の協力があったからこそ続けることができました」と感謝の気持ちを言葉に込めました。永埜さんが活動するときは、仕事を家族で分担しました。「家族の協力が一番」と笑顔で語ります。

補導員としての主な活動は街頭指導。公園やゲー

ムセンター、スーパーなど子どもたちが立ち寄りそうな場所を警察官や補導員とともに巡回し、声掛けをしています。また、小学校や幼稚園に出向き、寸劇や指人形劇などで犯罪を未然に防ぐ方法を指導しています。

補導員になったのは、当時の行政区長から勧められたのがきっかけ。民生委員や消防団員も兼務していた時は仕事と行事が重なることも。しかし、辞めようとは思いませんでした。「子どもたちが犯罪や非行に走らないようなまちをつくりたい」という強い思いがあったからです。

補導員は70歳で定年。永埜さんは定年まで続け、「子どもたちが犯罪に走らないように見守っていきたい」と、今日も街頭指導に出掛けます。

編集後記

▼ラグビーW杯が終了。今大会での日本代表の活躍は本当に素晴らしかった。強豪南アフリカを相手に勝ち切った瞬間、鳥肌が立った。記憶と記録に残る名勝負だった。トゥー・ミーも皆さんの記憶と記録に残るものにした。 (及川)

▼11月5日、「市民参加の新たな森林づくり植樹祭・秋」の取材に行ってきました。当日は、米川小学校の生徒などがヤマザクラの苗木を植えたり、ドングリをまいたりしました。紅葉した山々と天高く広がる青空。清々しい山の空気をいっぱい吸い込みながら、秋の自然を満喫してきました。 (佐藤)

▼日々パソコンにとらめっこしながら、広報の編集をしています。取材で外に出ると、無邪気な子どもたちの笑顔に心を癒されたり、活発な人から元気をもらったりと、また頑張ろうという気持ちになります。だんだん寒くなりますが、どんどんまちに練り出していきたいと思います。 (田代)



モバイルとめ

(携帯電話版ホームページ)

<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

